

研究課題	自分の思いや考えをもち、豊かに表現できる児童の育成
副題	～国語科を中心とした児童の言語能力（語彙力、読解力、書く力）の充実を図るための指導法の工夫・改善～
キーワード	○語彙力の向上 ○読解力・書く力の向上 ○単元のゴール設定 ○教師の授業力向上
学校/団体名	杉戸町立西小学校
所在地	〒345-0046 埼玉県北葛飾郡杉戸町高野台南5-1-1
ホームページ	https://www.town.sugito.lg.jp/site/nishi-e/

1. 研究の背景

本校は、令和元年度より本研究課題を設定している。以下に、その軌跡を記す。

令和元年度は、国語科を核として言語表現力と読解力の充実を図った。各種調査結果から言語表現力・読解力の向上が見られたものの、授業中は文章を正確に読み取ったり、自分の思いを豊かに表現したりすることが十分にできていなかった。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学習方法が制限された中、本校が抱えていた前年度からの課題と当時の現状から、研究主題に迫るために「語彙指導」や「書くこと」に重点を置くようにした。前々年度よりも書く力の向上が顕著にみられ、培った語彙力を生かして自分の考えを豊かに表現できる児童がかなり増えたが、文章を正確に読み取る力が充分であるとは言えないような状況であった。

そこで、令和3年度から「語彙力」「読解力」「書く力」の3本の柱で学力の充実を図り、現在にまで至っている。昨年度の各種調査結果から、3本の柱全てにおいて児童の学力の向上が見られた。しかし、総合的な点数は伸びてはいるものの、「読解力」「書く力」に関しては、項目によって経年比較で低下している学年が多かった。また、昨年度9月に実施したRST(リーディングスキルテスト)を活用して「読解力」を項目ごとに分けて分析したところ、「推論」「同義分判定」「照応解決」の項目で課題が見られた。

2. 研究の目的

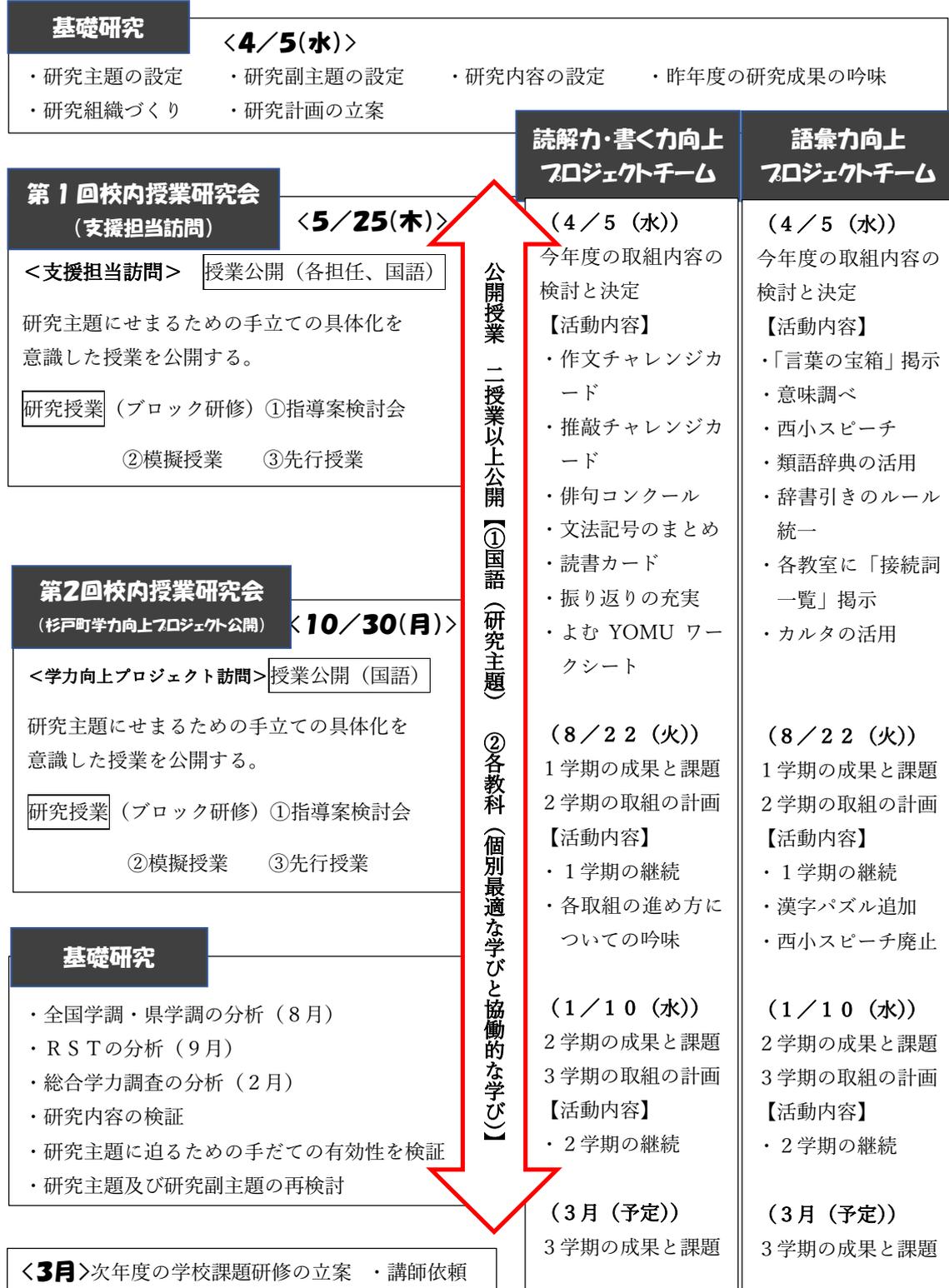
昨年度は、国語科を核に「語彙力」「読解力」「書く力」の充実を図った。しかし、国語科だけでは「語彙力」「読解力」「書く力」の向上を図る取組が一律的なものになってしまう、また、各職員の得意分野を生かしにくい等の課題があった。

以上、研究の経緯と昨年度からの課題を受け、今年度も「語彙力」、「読解力」、「書く力」に重点を置くとともに、研究内容に関して各担任の得意分野を生かすよう共通理解を行うことで、幅広い視点で「自分の思いや考えをもち、豊かに表現できる児童の育成」を図ることを目的として取り組んでいる。

3. 研究の経過

本研究の年間計画は、以下の通りである。

研究の進め方



(3) 単元のゴール設定

授業を作る上で全教職員が心がけていることとして、「単元を通したゴール設定」が挙げられる。大きな目標設定をすることで児童の意欲を喚起し、達成時には大きな自己肯定感につながる事ができた。

6年生の「私たちにできること」の授業では、SDGsを大きなテーマとして学習を行った。単元のゴールは「SDGsの観点から自分たちが実行できることを考え、まとめ、校長に提案し、承認されること」だった。実際に自分たちで作った校長へのプレゼンテーションが承認され、実行している姿は達成感に満ちあふれていた。



【6年生「私たちにできること」】

5年生の「グラフや表を用いて書こう」の授業では、自分たちの生活と関連させながら学習を行った。単元のゴールは「杉戸町の生活の暮らしやすさについて、データをまとめ、杉戸町長に意見文を送ること」だった。学習への意欲はもちろん、「自分たちの学習が社会に参画することにつながっている」という自己有用感につながり、杉戸町長からお返事をいただいたときはとても嬉しそうにしていた。



【5年生「グラフや表を用いて書こう」】

(4) 教師の授業力向上

年間を通して、一人の教員が授業を2回以上公開することにした。一つは国語科で研究主題（自分の思いや考えをもち豊かに表現できる児童の育成）にせまる授業、もう一つは杉戸町の学校全体で取り組む「個別最適な学びと協働的な学び、のある授業(教科は自由)の公開を行った。公開授業は原則として校長・教頭が必ず参観することとし、管理職と参観した教員で授業者にフィードバックを行った。授業者は指導案の代わりに、「公開授業構想シート」を作成する。これらは、授業構成の要点を押さえることによる「ねらいのはっきりした授業づくり」「明確な視点の授業参観」と、「指導案作成にかかる労力削減」を同時に満たすことをねらいとしている。それぞれが一つの授業について深く考えながら構成することや、互いに公開し合って吸収し合うことによって、各々の授業力向上を図ることができた。次頁以降は、実施の実績である。

令和5年度	公開授業構想シート	授業者()	校時	年組
日時・クラス	令和 年 月 日()	校時	年組	
教科・場所	教科名()	場所()		
単元名・教材名	(本時 / 時間)			
①【ねらい(授業の目標)】				
⑤【学習課題を生み出す活動や教材提示 (課題を出すための導入の工夫)】				
④【学習課題(ゴールに向かうための本時の課題)】				
⑥【研究主題とのかかわり(本時の授業での工夫)】				
【研究内容1】 相手意識や目的意識を位置づけた 自分の思いや考えをもたせるための工夫				
【研究内容2】 豊かに表現するための工夫				
【研究内容3】 読解力を高めるための工夫				
②【まとめ(何ができていればよいかというゴール)】				
③【期待される児童の振り返り (教科の本質を踏まえた理想的な振り返り)】				

【公開授業構想シート】

日付	学年	教科	単元名(題材名)	工夫した点
5月1日	5	体育	マット	子どもの技量にあった技の選択をさせた。自分の技の動画を撮影して確認し、ポイントとして教員のお手本動画をいつでも見られるようにした。
5月25日	4	国語	アップとルーズで伝える	筆者の考えに対して、自分は賛成・反対の立場なのか立場を明確にし、自分の経験に基づいた考えをまとめられるようにした。
5月25日	6	国語	〇〇会社から提案します！西小パワーアップ作戦	会社(クラスの係活動)単位で会議を開き、西小のためにできること(SDGs)を提案文にまとめた。ゴールは校長先生に承認印をもらえるような提案文を書くことにした。その後、2つの会社が活動できた。
6月7日	6	音楽	木星	1つの曲を各部分に分解して聴かせ、その後、作曲者の意図を考えさせて1つの曲に再構築させた。
8月31日	1	国語	かたかなをみつけよう	タブレットを活用して学校にあるかたかなで表すものを探し、ノートに書くようにした。
9月15日	4	国語	いろいろな意味をもつ言葉	児童が教える役となり、45分間の学習を展開した。全員が考えやすいように、児童があらかじめ考えた短文の例を提示した。
9月22日	6	理科	水溶液の性質	課題解決に向けて自分たちで考えた実験方法で実験を行い、結果や考察をまとめた。
9月28日	3	国語	食べ物マップを作って、食べ物博士になろう「すがたをかえる大豆」	学習課題を3つ提示し、どの順番でやるか、だれとどのようにやるかは子供自身が選択して学習を進めた。
9月29日	1	国語	うみのかくれんぼ	クマノミの体のヒミツを見つけるにあたって、協働的な学びができるよう場を設定し、考えたことをまとめた。
10月6日	2	生活	うごくおもちゃをつくらう	おもちゃをレベルアップさせる方法を子供たちが協働的に考えながら活動できるようにした。
10月6日	5	国語	グラフや表を用いて書こう	杉戸町長への意見文とし、目的意識を明確に持たせた。複数の資料から、自分の主張に合わせたものを選択させ、意見文をまとめた。

10月27日	3	社会	火事からくらしを守る	社会科見学に向けて、自分の知りたいことについて、教科書やインターネットを用いて考えを深めた。
12月6日	2	算数	かけ算(2)九九をつくろう	タブレットを活用して、複数の考え方で求めたり図で説明したりすることができるようにした。
12月7日	2	国語	かたかなで書くことば	片仮名で書くことばを使って三択クイズを作り、クイズ大会を行った。「一人で」、「友達と」、「先生と」の中から選び、どのようにクイズを作るか学び方を選択させた。
12月11日	5	体育	シートバスケットボール	チームで練習メニューを考えて、ゲームに向けてパスやドリブル、シュートの技術練習を行った。
1月17日	6	総合	日本文化探究	総合・国語・社会の教科横断的に計画を立て、手引きを作成し、見通しを持たせた。ゴールは、児童と話し合って決めた。茶道体験や読売新聞出前授業、修学旅行などの体験学習で人との触れ合いを大切にした。
1月26日	2	道徳	みかんの木の寺	正直に行動し、明るい気持ちで生活を送ろうとする意欲を高めさせた。動作化したり、板書を工夫したりすることで、主題に迫れるようにした。
1月29日	3	国語	ありの行列	めあてに沿って、本文を読み取ったことについて、一人一人が工夫をし、自分自身にとって考えやすいやり方でまとめた。
2月7日	4	音楽	2人でせんりつづくり	作りたい曲の音型をイメージさせ、2人で1曲を作曲させた。また、各フレーズが全体の中でどのように生かされているか考えさせた。
2月14日	1	生活	かぜとあそぼう	制作と遊びの時間を区切らず、児童の意欲と集中を途切れさせないように活動させた。
2月19日	4	社会	国際交流のさかんなまちさいたま市	課題につながるクイズを出した。課題を明確にすることで、どの児童も教科書やインターネットを使って課題を調べられるようにした。
2月21日	1	算数	かたちづくり	作った図形をオクリンクに送って、友達の並べ方を参考にしたり、図形の特徴を確認したりした。

5. 研究の成果

本研究を進めた上での最大の成果の一つが、設定された単元のゴールに向かって前向きに取り組もうとする児童が増え、学習に対する意欲が高まったことである。「国語」の時間が楽しみだという呟きが聞こえることも多くなった。また、総合学力調査の結果における「記述式」の問題の正答率は、多くの学年が「短答式」「選択式」の値よりも数値が高く、児童の「書く力」が向上していることがわかった。全国学力・学習状況調査では、国語、算数共に平均を上回ることができた。

また、学校評価における「学習指導の充実」の項目を教職員のアンケート結果から分析すると、全項目の達成率が8割を超えており、教師が前向きに授業作りを行っていることがわかった。児童を対象に実施している生活アンケートでも「授業の内容がわかる」の項目は全校平均90%を超えており、児童自身も定着を実感していることがわかった。

6. 今後の課題・展望

今後の課題は、学年間の差である。埼玉県学力・学習状況調査や総合学力調査では、平均を超えた学年とそうでない学年があった。読解力・語彙力・書く力の正答率が向上しているかどうか、学年によって差があった。国や県の学力調査問題で求められる力が日々の授業で培われるよう、授業計画を改善したり ICT 端末を活用して各自に合わせて問題演習を行ったりすることで、学びの充実を図っていきたい。

また、次年度の年間指導計画を職員間で吟味して作成している最中である。次年度は「総合的な学習の時間」「生活科」の研修を行う予定である。今年度までの研究課題である「自分の思いや考えをもち、豊かに表現できる児童の育成」を様々な角度から生かせる研修内容にしていきたい。

7. おわりに

本研究から、研究を進めていく上で最も重要なことの一つとして「チャレンジ精神」があるのではないかと考えた。単元のゴールを設定したり、授業を何本も公開したりすることは、実際にやってみると十分な時間と労力を要することである。本校が学校を挙げて様々な取り組みを行うことができたのは、教職員の「子どもに豊かな学びをさせてあげたい」という思いを根底にした「挑戦心」に依拠するところが非常に大きい。研究に情熱を注いでくれた本校の教職員に感謝すると共に、次の研究に向けて邁進していきたい。

8. 参考文献

- ・奈須正裕（2021）『個別最適な学びと協働的な学び』東洋館出版社